



福岡県交通安全施設業協会が飯塚市に寄贈 子どもの安全を守る横断防止柵を施工

安全施設を寄贈するプロジェクトを推進

安全で円滑な道路交通の確保に取り組み福岡県交通安全施設業協会が10月20～21日、飯塚市二瀬地区の市道に横断歩道と横断防止柵を施工。同市に寄贈しました。

同協会は、次代を担う子どもたちを交通事故や犯罪、災害から守る活動を全国的に展開している全国道路標識・標示業協会が推進する「子どもを守るプロジェクト」に賛同。今回のプロジェクトは県協会が独自に事業費を負担行いました。

福岡県交通安全施設業協会の田中醫哉会長は福岡・北九州・筑豊・筑後から毎年1エリアを選んで寄贈しています。今年には筑豊エリアが対象。飯塚市と相談のうえ、二瀬地区に決めました。経緯を説明します。

毎年実施しているプロジェクトです。子どもたちを守るために今後も続けたい



田中会長



協会会員の車両300台に「子ども110番の車」ステッカー



福岡県交通安全施設業協会に所属する会員の車両には「子ども110番の車」のステッカーが貼られています。これは「子どもを守るプロジェクト」に賛同する活動として、2018年度に同協会が作成したものです。子どもが誘拐や暴力、痴漢など何らかの被害に遭った、あるいは遭いそうになったと助けを求めてきたときに保護し、警察や学校などに連絡するボランティア活動の目印です。

同協会では「子ども110番の車」の対応要領をマニュアルにまとめ、「地域ぐるみで子どもの安全を守ろう」と積極的に呼び掛け。現在約300台の協会会員の車両がステッカーを貼り、県内を走っています。



大家理事が「高さ80cmの柵が子どもたちの安全を守ります」と説明

小、中学校の通学路を240cmにわたりガード

同地区は飯塚市立一瀬中学校、同伊岐須小学校、あいだつくしんほ保育園が並んで立地しています。合計約1400人の園児、児童、生徒が通園・通学に利用する市道ですが、歩道をガードする柵がありません。

工事の採配を振った福岡県交通安全施設業協会の大塚広貴理事は「この道路はバス通りで比較的交通量が多いうえ、生コンクリート工場が近くにあり、大型トラックなどが頻りに通行します。歩道は2人が並んで歩ける程度の幅であり、おしゃべりに夢中になった子どもたちがつり車道に下りてしまったり、ぶつけて急に車道にはみ出したりする事故になりかねません。そこで子どもたちが道路に出ないようにする横断防止柵を設置することに



パイプをはめて仮止めした後、最後に一気にボルトを締めていく



作業は2日間。初日に地中に埋めて支柱を固定。翌日にパイプをはめていった

横断歩道の長さには、中学校と小学校横の歩道部をカバーする約230cm。路面からの高さは80cmで、簡単にへぐり抜けられないように25cm間隔で横にパイプが渡されています。今回は横断防止柵設置の他、経年劣化により不鮮明になっていた横断歩道の補修も行いました。田中会長は「子どもたちが安全に、安心して登下校ができるように、今後もこのプロジェクトを続けていきたいと思っています。」



横断歩道は計4カ所を補修した



11月9日、協会関係者が寄贈のあいさつに飯塚市を訪問。田中会長が片誠誠飯塚市長に目録を渡した



約230cmに渡り施された横断防止柵。小中学校横の歩道をカバーする

イエローセーフティ YELLOW SAFETY キャンペーンとは

子どもたちが元気で安全に通園・通学できる環境づくりを目指し、ドライバーに思いやり運転を呼び掛ける活動で、西日本新聞社が2013年から展開しています。交通安全の約束を描いた「YESおえかきちょう」を福岡県内の幼稚園・保育園を中心に寄贈する他、県内企業や団体による交通安全の取り組みなどを紙面で紹介しています。



YESおえかきちょう



こころちゃん まもるくん